

令和5年度大学コンソーシアムとちぎ 学生活動支援事業 報告書

機 関 名	宇都宮大学
団 体 等 名	ほんわか里山物語♪～おおぎす自然体験村～
学生代表者氏名 (所属・学年)	高橋 日菜子 (宇都宮大学農学部森林科学科・2年)
責任教職員氏名	西尾 孝佳

1. 事業名	宇都宮大学生による大木須地域振興
2. 実施時期	令和3年4月～
3. 実施場所	栃木県那須烏山市大木須
4. 事業の内容等	<p>○活動の概要</p> <p>私たちは栃木県那須烏山市大木須地域の振興を目指して様々な活動を行っている。その一つが、この地域のシンボルとなっている古民家（ほたるの里古民家大木須）を中心に、里山らしい景観を整備して環境学習の場とすることを目標にした「自然体験村構想」である。私たちは「ほんわか里山物語♪～おおぎす自然体験村～」は宇都宮大学に属する学生サークルとして、この取り組みの実現に協力するために様々な活動を行っている。</p> <p>○具体的な活動内容</p> <p>① 地域の景観と魅力を向上し自然体験の場となるビオトープ整備</p> <p>大木須地域にある古民家（ほたるの里古民家大木須）の近くにはこのサークルで整備を手伝っているビオトープがある。かつて、このビオトープは様々な水生生物の動植物が観察できたが、数年前からアメリカザリガニが大量発生して生態系に悪影響を及ぼすことが懸念されている。今年度はザリガニを駆除することに着手した。まず、5月に標識再捕法でザリガニの個体数調査をした結果、ビオトープにザリガニが約200匹いると推定された。駆除方法はトラップを仕掛ける方法を用いた。トラップはカニを捕まえるかごと麻袋を使ってく作ったもので、ザリガニが暗いところを好む特性を活かして、餌に誘われたザリガニがカゴの中に入り、麻袋（暗室）へ移動させて捕まえるという仕組みである。トラップの餌として、鯉の餌や、ザリガニの共食いをする特性を活かして、トラップにかかったザリガニの死骸をそのまま餌にするという方法を用いた。このトラップにより6月～1月の間に約1</p>

00匹の駆除に成功した。



写真1 ビオトープにザリガニトラップを仕掛けている様子

② フェノロジーカレンダーの作成

大木須地域の自然あふれる魅力を発信し、「自然体験村構想」を実現するために、四季折々の生物を分かりやすく示すことができるフェノロジーカレンダーの作成に取り組んでいる。今年度は、大木須地域の生物調査を実施し、観察対象として魅力のある生物が生息する場所や時期を調べてデータにまとめた（写真2）。また、地域の方からも大木須に生息する鳥類の観察データをいただいた（写真3）。これらのデータを基にフェノロジーカレンダーに記載する項目を決め、大まかな草案を作成した。記載する項目は「大木須の行事」、「鳥類」、「昆虫・爬虫類・両生類」、「オオムラサキ」、「ホタル」である。フェノロジーカレンダーの項目に「大木須の行事」を入れることで、大木須を訪れた方々に大木須地域の自然と共にある地域の方々の様々な暮らしや行事を知ってもらうことが期待できる。また、オオムラサキとホタルは大木須地域の魅力の一つである生物で、他ではあまり見られず地域全体で保護や育成に力を入れている。フェノロジーカレンダーはパンフレット形式にして、生物や行事の時期だけでなく詳しい説明も入れてより魅力が伝わるようにしようと考えている。今年度で完成には至らなかったが、大体のことを決めることができたため、来年度には完成する予定である。

	6/26	7/17	8/7	8/9	8/11	8/14	9/4	10/2
昆虫								
ナツアカネ				○				
コオニヤンマ						○		
クハアゲハ (幼虫)								○
ヒメエグリバ (幼虫)				○				
オオセンチコガネ							○	
スジコガネ類		○						
タマムシ			○					
オトシブミ類							○	
オバボタル?	○							
キリギリス類								
アシクロツユムシ (幼虫)		○						
キリギリス					○			
ミンミンゼミ				○				
ミズカマキリ		○						
クマバチ								○
コカマキリ							○	
魚類								
カワムツ	○					○		
両生類								
アカハライモリ		○						
ニホニアガエル						○		
ほ虫類								

	0219	0222	0223	0224	0226	0227	0302	0303	0306	0308
スズメ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
ヒヨドリ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
ムクドリ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
ヤマガラス	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
シメ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
ホオジロ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
ジョウビタキ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
アオジ?	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
イカル	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
シロハラ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
ビツズイ (?)	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
ツグミ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
キジバト	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
ハシトガラス	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
アオガラス	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
トビ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
ノスリ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
チョウゲンボウ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
チュウロダイサギ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
カシラダカ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
シジュウカラ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
クサシギ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
セグロセキレイ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑
ヤマセミ	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑

写真2 生物調査のデータの一部 写真3 地域の方からいただいた鳥類のデータ

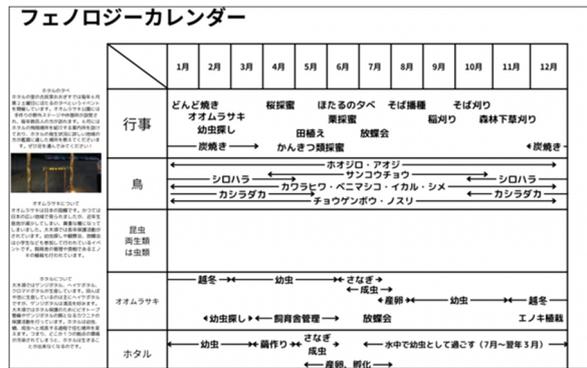


写真4 フェノロジーカレンダーの草案

③ 自転車の駅の整備

大木須地域内を通る道路は栃木県でも有名なサイクリングコースの一つとして知られ、度々サイクリングを楽しむ方々が訪れる。その方々が休憩場所として大木須地域に留まり、地域の魅力を気軽に知る機会を提供するために「自転車の駅」の整備を進めている。自転車の駅には大木須の古民家のHPにつながるQRコードを設置し、自転車の駅を利用された方に大木須地域の魅力を発信できるようにした。今年度は、自転車の駅の利用促進に向けて、QRコードからのHPへのアクセス数の調査や、地域の方々に自転車の駅の普段の様子や利用者の有無を伺った。QRコードからのアクセス数は月に6～14回程で、利用者があまりいないことが分かった。地域の方々からも、自転車の駅を使用している人はあまり見かけないという意見をいただいた。



写真5 自転車の駅

5. 事業の成果と
今後の課題

○**成果と今後の課題**

① ビオトープ整備

今年度作成したトラップはザリガニ駆除に効果があり、理論上半永久的に使用することができるため、設置し続ければ今後もザリガニ駆除に貢献できると考えられる。しかし、トラップによる駆除ではザリガニの繁殖スピードに追いつくことが難しいため、環境に配慮した自然由来の毒による駆除や大木須地域に生息するザリガニの天敵となる生物を投入する方法を検討していきたい。

② フェノロジーカレンダー

今年度のフェノロジーカレンダーの成果は今まで蓄積したデータを整理しておおよその形まで決められたことである。また、フェノロジーカレンダーを作成するにあたって大木須地域を散策したり地域の方々からお話を聞いたりして、学生は普段なかなか知ることができない里山の自然や地域の方々の暮らしを知ることができた。フェノロジーカレンダーは大木須地域を訪れる方や古民家に宿泊される方に向けたものであり、大木須地域の魅力を伝える発信源の一つである。今は計画段階だが、実際に形にできた際にまた新たな課題が見つかると考えられるため、地域の方々と話合いを重ねてより良いものを作っていきたい。

③ 自転車の駅の整備

自転車の駅のQRコードからHPに移動した人数が想像以上に少なかったことが課題である。今自転車の駅を設置しているオオムラサキ公園は人通りがとても多くはないが、今はただ設置しているだけで自転車の駅についての情報発信をしていないため認知度が低いと考えられる。今後はさら

	に整備を進めると共に、Googleマップへの掲載を申請するなどして、情報発信にも力を入れていきたい。
--	--

(注) 1. 記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。

2. 事業内容がわかるような資料や写真などがあれば添付してください。

報告書（添付書類を含まず）はA4判3枚以上5枚以内にまとめてください。

3. この報告書は、各関係機関等へ公表するとともに、大学コンソーシアムとちぎのホームページへの掲載を予定しており、次年度以降の学生活動支援事業に役立てていきます。